

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	事業目標は地方行政と住民組織が連携して道路整備を行う体制を確立し、農村部の道路整備の持続的発展を促すことである。主な活動は以下の4つである。 ・農村部の道路整備及び維持管理 農村部の道路状況の悪い道を対象に、道路整備及び整備後の維持管理を行う。 ・道路整備を担う住民組織の能力強化 上記の道路整備及び維持管理を通して道路整備を担う住民組織の道路整備技術及び組織運営能力を強化する。 ・住民組織と道路行政など他の機関との連携 道路行政などの他機関と住民組織で連携した道路整備の事例を作り、住民組織と他機関との連携を促進する。 ・道路行政に対する住民組織による道路整備についての認知の普及 The project purpose is to improve rural roads through having local governments and communities collaborate to repair roads. The main activities are the following; 1) rural road repair, 2) capacity building of villager Community, 3) lead collaboration between CSO and DRRD 4) sensitization to townships and DRRD on rural road repair conducted by communities.
(2) 事業の必要性 (背景)	(ア) ミャンマーにおける開発ニーズ 現在ミャンマーでは主要都市を中心に飛躍な経済発展が進んでおり都市部や都市間を結ぶ幹線道路を中心に道路整備、拡幅が盛んに行なわれている。しかし国民の8割が住むと言われる農村部まで公共工事が行き届いておらず、未だ未舗装で整備が行届いていない道が多い。そのため雨季になると路面は泥沼化または冠水し、沿線住民の学校、病院、市場など社会サービスへのアクセスが遮断される。このことが農村部における社会経済的な発展を妨げており、貧困の一因となっており道路整備の必要性が高い。 農村部の道路整備は、建設省下の地方道路開発局 (Department of Rural Road Development, 以下 DRRD) により行われるが、建設会社に工事を発注しているため工事単価が高くなり、道路補修を実施できる範囲はごく少数に限られている。2014年3月から申請団体が住民組織に技術指導し実施した道路補修工事では、地域開発局が実施する工事と比べ同等の出来形でありながら、2～3割の工事費を削減できた事例がある (道路状況、条件によって割合は異なる)。この住民組織が道路行政などの他の機関による道路整備の委託先となれば、建設会社に委託するよりも多くの道路を整備することができる。これを具体化するため、道路整備委託先となる住民組織の能力強化と実際に住民組織と道路行政で連携したパイロット事業を通して、道路行政などの他の機関と住民組織が連携して道路整備を行う体制を構築する必要がある。 (イ) 事業内容とその背景 道路整備工事を行う3事業地 (シャン州ハンピュー村、マグウェ地域レマ村、ネピドー連邦領シュエチャンコン村) では2017年2月開始事業、2018年2月開始事業で申請団体による施工実績があるが、各村落までの道を完成させるには至っていない。(詳細は参考資料1, 2, 3参照) 本年度事業で村落までの施工を完了して拠点間のアクセスを改善することでより大きな経済的効果が期待できる。またこ

	の 3 事業地内では、現在対象としている村とは別の村において申請団体が施工した実績のある村があり、それらの村にはそれぞれ道路施工を担う住民組織が存在する。本年度事業では事業対象地の村に加え、申請団体の施工実績がある他の村の住民組織も参加する維持管理計画研修を通して、複数の村同士で協力して道路の維持管理をできる体制の構築を目指す。 エーヤワディ地域では、2017 年 2 月開始事業で複数村の住民組織からメンバーを選出し、将来的に道路行政などの他の機関からの委託先になることを目指す組織 CSO (Civil Society Organization) を結成している。2017 年 2 月開始事業及び 2018 年 2 月開始事業で施工技術や組織運営について実施工も含めた研修を行い、地域の複数村で協力して道路整備を行う体制が構築されている。また 2018 年 2 月開始事業でエーヤワディ地域の地方行政 (General Administration Department) に対して CSO のアソシエーション登録を行い (2018 年 7 月現在申請手続き中)、対外的な認知が進んでいる。実際に、2018 年 1 月にエーヤワディ地域にて、CSO がミャンマー与党である NLD 党から委託を受け道路整備を行った事例がある。将来的に CSO が地方道路行政による道路整備の委託先となるよう、本年度事業でも他の機関と連携した道路整備の事例を作り、事業終了後も官民共同での持続的な道路整備がなされることを目指す。 また、申請団体の道路整備技術の普及や、CSO の認知度向上を図るために、DRRD や道路標準の作成に関わる国際機関などを招いてワークショップを行い、申請団体の道路整備技術の共有、CSO による道路整備活動の報告を行う。 ●「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連性 ミャンマー農村部道路問題の解決を通し、コミュニティ開発と貧困削減に取り組む本申請事業は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 1: あらゆる場所、あらゆる形態の貧困を終わらせる (細分化ターゲット 1.4)、目標 9: 持続可能なインフラストラクチャー構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る (細分化ターゲット 9.1, 9.a) に該当する事業である。 ●外務省の国別開発協力方針との関連性 ミャンマーに対する我が国 ODA 概要における「重点分野 (3) 持続的経済成長のために必要なインフラや制度の整備等の支援、円借款も活用しつつ、エネルギーや交通網の整備を含むインフラ整備等を促進。」(国別データ集 2017 より) に寄与する。
(3) 上位目標	官民協働で地方道路が整備かつ維持管理され、市場や社会サービスへのアクセスを持続させることにより、農村部住民のくらしが豊かになる。
(4) プロジェクト目標	シャン州、マグウェ地域、ネピドー連邦領では道路整備をして拠点間のアクセスが改善すると共に、周辺村間で連携して道路の維持管理をする体制の構築を目指す。 エーヤワディ地域ではすでに結成された CSO と DRRD など他の機関で連携して小規模なパイロット事業を行うことを通して連携の手順や施工可能範囲の知見を積み重ね、事業終了後も CSO が他の機関と連携して道路整備を行うことのできる体制の構築を目指す。

	成果 1-1：住民リーダーの施工管理能力向上 成果 1-2：住民グループが道路整備・維持管理計画を習得し、市場、学校、病院等へのアクセスが改善する。 成果 3：住民グループが道路整備・維持管理計画、活動を持続的にを行い村内の道路状況を改善、維持できる。 成果 4：それぞれの地域の特性に適した道路標準の作成に寄与する																																								
(5) 活動内容	本事業は現地の農村開発を行う NGO、Dear Myanmar と連携して行う。住民参加での農道整備事業に不可欠なコミュニティへの事業説明、資機材調達時の交渉や段取りを担当する。申請団体が事業を統括し、道路整備に関する技術指導や資金管理と報告書のとりまとめを行う。※各研修の詳細内容については別途添付「研修内容詳細」参照。 活動 1：実施工を通じた道路整備技術普及研修 申請団体が 2015 年に DRRD と締結（2018 年 7 月現在更新手続きの途中）した Memorandum of Understanding（以下、MOU）に基づき、シャン州、マグエ地域、ネピドー連邦領にて、実施工を通じた住民への技術普及研修を行う（事業地の状況、工事の詳細などは参考資料 1～3 工事計画書を参照）。施工現場には常時パートナー団体のスタッフが常駐し、施工状況の確認と報告するほか、申請団体の専門家、及びパートナー団体のエンジニアが定期的に現場に向かい、施工の指導及び管理を行う。 活動 1-1：グループリーダーへの施工に関する研修 各村でグループリーダーとその補佐に対して、道路整備技法の研修を行う 【グループメンバー研修参加人数と研修日数（活動 1-1, 1-2）】 <table border="1" data-bbox="419 1120 1453 1317"> <thead> <tr> <th>村名</th><th>プロン</th><th>レマ</th><th>シュエチャンコン</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リーダー（人）</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr> <td>リーダー補佐（人）</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr> <td>参加者（人）/日</td><td>25</td><td>50</td><td>50</td></tr> <tr> <td>工事研修日数合計（日）</td><td>150</td><td>90</td><td>70</td></tr> </tbody> </table> 活動 1-2：実施工とグループメンバーへの施工に関する実地研修 申請団体と連携団体エンジニアの指導のもとで道路補修の実施工を通し、グループメンバーが道路補修技術を習得する。 【活動 1 実施地一覧表】 <table border="1" data-bbox="419 1532 1453 2076"> <thead> <tr> <th>地域/州</th><th>地区</th><th>村名</th><th>整備距離 (m)</th><th>裨益者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. シャン州</td><td>ペコン</td><td>① ハンピュー (Han Phyu) ② プロン (Phu Lung) ※ハンピュー村周辺道路を 2 村の村人とともに整備する。</td><td>1,230</td><td>3,000</td></tr> <tr> <td>2. マグエ地域</td><td>シンバウウエ</td><td>① レマ (Lai Ma)</td><td>4,146</td><td>9,000</td></tr> <tr> <td>3. ネピドー連邦領</td><td>レーウェイ</td><td>① シュエチャンコン (Shue chang kong) ② コンポズ (Kone pose)</td><td>816</td><td>3565</td></tr> </tbody> </table>	村名	プロン	レマ	シュエチャンコン	リーダー（人）	4	5	5	リーダー補佐（人）	4	5	5	参加者（人）/日	25	50	50	工事研修日数合計（日）	150	90	70	地域/州	地区	村名	整備距離 (m)	裨益者数	1. シャン州	ペコン	① ハンピュー (Han Phyu) ② プロン (Phu Lung) ※ハンピュー村周辺道路を 2 村の村人とともに整備する。	1,230	3,000	2. マグエ地域	シンバウウエ	① レマ (Lai Ma)	4,146	9,000	3. ネピドー連邦領	レーウェイ	① シュエチャンコン (Shue chang kong) ② コンポズ (Kone pose)	816	3565
村名	プロン	レマ	シュエチャンコン																																						
リーダー（人）	4	5	5																																						
リーダー補佐（人）	4	5	5																																						
参加者（人）/日	25	50	50																																						
工事研修日数合計（日）	150	90	70																																						
地域/州	地区	村名	整備距離 (m)	裨益者数																																					
1. シャン州	ペコン	① ハンピュー (Han Phyu) ② プロン (Phu Lung) ※ハンピュー村周辺道路を 2 村の村人とともに整備する。	1,230	3,000																																					
2. マグエ地域	シンバウウエ	① レマ (Lai Ma)	4,146	9,000																																					
3. ネピドー連邦領	レーウェイ	① シュエチャンコン (Shue chang kong) ② コンポズ (Kone pose)	816	3565																																					

活動 2 : CSO (Civil Society Organization) の能力強化研修及び DRRD との連携の促進のためのパイロット事業

CSO が将来的に道路行政など他の機関の道路整備委託契約機関として認められ、持続的な道路整備が行われる体制を構築するため以下の活動を行う。

(なお 2018 年 2 月開始事業ではエーヤワディとマグウェで CSO を結成し、能力強化研修を行った。しかし本年度が最終年度であること、現在のマグウェの施工管理や組織運営状況を鑑みて、マグウェの CSO を行政の道路整備の委託先にする活動を行うことは断念し、本年度の CSO の活動はエーヤワディのみとした。結成したマグウェの CSO はマグウェでの活動 3 の維持管理計画研修の対象とし、周辺道路の維持管理を担う組織となることを目標に能力強化を続ける。)

活動 2-1 : CSO と DRRD で連携して行うパイロット事業

CSO と DRRD とで連携しての小規模のパイロット事業を実施する。申請団体、パートナー団体のエンジニアが実際の施工現場で現場指導等、資機材選定等の研修を行う。

活動 2-2 : CSO 運営管理強化研修

CSO が道路補修工事を担当する団体として指導的な立場となりうるよう技術面、運営管理について研修する。

活動 2-3 : CSO と DRRD が連携して事業を行う際のガイドラインの作成

活動 2-1 で行う CSO と DRRD での小規模なパイロット事業を通して、具体的な連携事例とその手順をまとめたガイドラインを作成し、将来的に CSO と DRRD で連携して持続的な道路整備がなされていくことを目指す。

【活動 2 実施地一覧表】

地域、州	地区	村	研修人数
1. エーヤワディー地域	ピャボン	① カンター (Khantah) ② チョンチャイ (KyonKyaik) ③ ミンラス (Min Hla Su) ④ ケンヨータン (Keen Yoo Tan) ⑤ ニヤットウ (Nyat Taw)	20

活動 3 : 道路維持管理及びコミュニティ組織強化研修

下記の 3 地区において活動 1 で施工する道路を対象に、雨季中の道路損傷箇所の記録、道路補修の計画についての研修、及び雨季后に実地研修を行う。それぞれの地区で対象道路周辺の複数の村の住民組織から招集し研修を行うことで村同士の連携を強化し、事業終了後も村同士で協力して道路の維持管理を実施していく体制の構築を促す。

【活動 3 実施地一覧表】

地域、州	地区	村	研修人数
1. シャン州	ペコン	① プロン ② ハンピュー ③ ノットン	20 人

	2. マグエ地域	シンパウエ	① ミンカン ② タマ ③ レマ	20 人
	3. ネピドー連邦領	レーウェイ	① シュエチャンコン ② ゼーコン ③ タロップン ④ コンポズ	20 人
活動 4：地方行政 (GAD)、地域開発局 (DRRD) エンジニア、へ各事業地での活動の報告や道路整備技法共有 本事業で行った各地域の道路補修技術、住民参加による実施体制について DRRD や GAD、ミャンマーの道路標準作成に関わる国際機関などに対して共有し、申請団体の道路整備技術の普及とそれぞれの地域に適した道路標準の作成に寄与することを目指す。本セミナーは各地域の DRRD の統括機関であるネピドー DRRD の招待を予定しているため、ネピドー連邦領での実施を予定している。その際 CSO メンバーからも自ら CSO の活動についての報告を行い、CSO が道路整備を行うことの有効性の認知を促す。 直接裨益人口：1085 人（シャン州プロン村 100 人、マグエ地域レマ村 250 人、ネピドー連邦領シュエチャンコン村 715 人、エーヤワディ地域ピャボン地区 20 人） 間接裨益人口：15665 人（シャン州ペコン地区道路沿線住民 3,000 人、マグエ地域レマ村対象道路沿線住民 4,000 人、ネピドー連邦領シュエチャンコン村対象道路沿線住民 3665 人、エーヤワディ地域ピャボン地区対象道路沿線住民 5,000 人）				
(6) 期待される成果と成果を測る指標	成果		成果を測る指標	
	成果 1-1 住民リーダーの施工管理能力向上		計画と実績の比較、住民リーダーによる施工記録の作成、施工監督状況の視察。	
	成果 1-2 住民グループが道路整備・維持管理計画を習得し、市場、学校、病院等へのアクセスが改善する。		専門家、現地エンジニアが現場監督をする中でリーダーや住民の働き、施工品質を確認し判断する。 プロン村 1230m、レマ村総延長 4146m、シュエチャンコン村 816m、施工前後の写真と施工記録①通行車種、走行時間調査②登校可能日数（施工前後で比較する。）③出荷回数	
	成果 2 行政と CSO、住民グループの協働体制が促進される		・行政（地域開発局、地方行政職員）の現場視察件数：3 回 ・行政と CSO との、道路補修実施に関する協議回数：3 回 ・上記協議の結果、連携して実施される道路補修事業：1 回 ・上記の連携事業における CSO による申請書、積算書、施工管理記録、報告書の作成 ・上記の連携事業を踏まえた DRRD と CSO で連携する際のガイドラインの作成	
	成果 3 住民グループが道路整備・維持管理計画、活動を持続的にを行い村内の道路状況を改善、維持できる。		実際にコミュニティが自発的に行った道路補修、維持管理活動件数：3 回	
	成果 4 それぞれの地域の特性に適した道路標準の作成に寄与する		・当団体の道路整備技術や申請団体の活動を行政に対して報告するワークショップの開催：1 回 ・上記のワークショップにて当団体の道路整備技術に興味を示した団体との道路標準作成に関する個別の協議回数：2 回	

(7) 持続発展性	<u>道路整備技術の普及</u> 各コミュニティが道路整備技術を習得し、整備後も定期的に維持管理工事を行えば、道路行政による同一道路の補修頻度が減り、道路整備予算がより多くのコミュニティに対して分配・利用されることに繋がる。 また過去の活動を通して、ミャンマー道路行政も申請団体の道路整備技術に関して興味を示している。道路行政に対する事業報告や事業地の視察の受け入れを通して技術共有を積極的に続ければ、今後ミャンマー国内において本事業で普及する道路補修技術が標準工法として採用される可能性も十分にある。 <u>官民連携による道路補修工事</u> CSO が道路施工管理能力、申請書や報告書の作成能力を備えれば、CSO が道路行政など他の機関から委託を受け道路整備をすることが可能になる。行政が道路整備を CSO に委託することになれば、建設会社に委託するより低コストでの道路整備が可能となり、より多くの道路整備が進むことになる。CSO が他機関からの委託を受けた道路整備の実績を積んで、同組織の持つ道路整備技術の認知が進めば、より多くの道路整備事業を委託されるようになり、CSO メンバーの収入向上にもつながる。実際に 2018 年 1 月にエーヤワディ地域にて CSO がミャンマー与党である NLD 党から委託を受け道路整備を行った事例がある。
------------------	---